

COCO NEWS

～社会福祉法人等の地域における公益的な取組情報～



仙台市社会福祉協議会における 令和7年度の公益的な取組に係る事業予定を紹介します！

1 種別団体の意見交換

児童・障害・高齢等の各種別団体との意見交換会を実施します。
団体ごとの取組状況の共有や、公益的な取組に係る今後の進め方について意見交換を行います。

2 地域課題解決に向けたソーシャルワーク研修

宮城県社会福祉法人経営者協議会と共催で7月8日に開催します。
社会福祉法人等の職員が地域生活課題の解決に向け多様な実践の展開を進めていくことを目的に行います。

3 COCO NEWS の発行

公益的な取組を進めるにあたって必要な情報や、社会福祉法人・施設・事業所が地域において行う活動事例について発信します。

4 情報交換会

現在行っている活動や悩んでいることを共有しながら、活動をさらに発展させていくことを目的に行います。詳細は別途ご案内いたします。※秋頃の開催を予定

5 地域と連携した取組の支援

公益的な取組を検討している社会福祉法人等と地区社会福祉協議会等の地域団体とのマッチングや、連携して行う具体的な取組の実施に向けたサポートを行います。「活動を始めたいけど何をしたらいいかわからない」「地域ではどんな活動が求められているのだろう」等、本会CSWにご相談ください！

CSW って？

コミュニティソーシャルワーカーの略称で本会の各区・支部事務所に配置されています。
個別の困りごとについて地域で活動する個人や関係機関など様々な社会資源を結びつけながら相談対応するとともに、地域における課題の共通性や活動の必要性などに着目し、地域住民とともに誰もが暮らしやすい支え合いの仕組みづくり・地域づくりに向けた支援をしています。



★★仙台市社会福祉協議会 各区・支部事務所のご案内★★

- 青葉区事務所
青葉区二日町4-3 仙台市役所二日町分庁舎1階
☎022-265-5260
- 宮城野区事務所
宮城野区原町3-5-20 メゾン坂下1階
☎022-256-3650
- 太白区事務所
太白区長町南3-1-30 南部アーチル1階
☎022-248-8188
- 宮城支部事務所
青葉区下愛子字観音堂27-1 宮城社会福祉センター内
☎022-392-7868
- 若林区事務所
若林区保春院前丁3-1 若林区中央市民センター別棟1階
☎022-282-7971
- 泉区事務所
泉区七北田字道48-12 泉社会福祉センター内
☎022-372-1581

次ページからは、社会福祉法人の取組を紹介します。

事例紹介

ぽっけの中には地域とつながるメニューがいっぱい。 社会福祉法人 ぽっけコミュニティネットワーク



同法人で運営するポッケの森は仙台市太白区人來田にある障害者就労継続支援 B 型事業所です。弁当製造やお菓子製造を通して、障害の有無に関わらず、人間として生きていく事柄を身に付けて成長できる場を提供しています。また、地域住民や大学等との交流を図りながら地域における公益的な取組を進めています。写真はポッケの森で開催している「人來田唄の会」のメンバーとポッケの森の利用者および職員の皆さんです。

ポッケの森

ここは地域の資源。私たちだけではなく、みんなのもの。
変化する社会のなかで、地域住民と一緒に
地域活性化を目指したい。



社会福祉法人ぽっけコミュニティネットワークの地域における公益的事業について ※令和6年度実績

◎ポッケの歌声喫茶

地域住民が主催し、毎月第3火曜日にポッケの森レストランにてピアノやアコーディオン、ギター等の生演奏を行っています。

◎ピアノコンサート

◎食事作りが困難な高齢者に対するの配食
就労支援事業で対応しています。

◎地域の買い物困難者への課題に対応

週2回、移動販売車がポッケの森の敷地内に停まります。買い物後はレストランに移動しお茶会をする方が多く、集いの場にもなっています。

◎駐車場を活用

仙台市の移動図書館の巡回場所として活用されています。

◎まなびサポート（無料の学習支援）への協力

貧困や不登校、虐待などのさまざまな生きづらさを抱える子どもたちを支援しているNPO法人に協力し、居場所づくりや学習サポートの場としてレストランを無償貸出しています。

◎宮城大学との取組

ボランティアサークル「MYUの森」と連携して、エシカルスイーツ（人の健康や地球環境、生産者や社会に配慮したスイーツ）の企画・開発、製造、販売を行っています。

◎地域の一員として

町内会等の地域活動への協力を行っています。

◎人來田唄の会

最終ページで詳しく紹介しています。

■ 法人名／社会福祉法人ぽっけコミュニティネットワーク

■ 本部所在地／宮城県仙台市太白区人來田 2 丁目 2-1

■ 連絡先／TEL：022-243-7280

■ ホームページ／<https://www.pokke-mori.jp/>
ホームページはこちらからアクセスできます→



特別なことをしているつもりはない。

できることをしていたら いろいろな形になっていた。

■さまざまな活動をされていますが、どのようなきっかけで活動を始めましたか。

ポッケの森は平成18年に開所しましたが、もともとこの土地には公設市場がありました。当時はまだ障がいに対する偏見があり、開所前の住民説明会では何を言われるかドキドキしましたが、「公設市場と同じように地域住民が自由に入出入りできる場所にしてほしい」という思いがけない意見をもらいました。その意見を受け、敷地内を通れるように施設の設計を変更したり、窓を多くして中の様子を外から見てもらえるようにして、地域に開かれた場所になるようにしました。

公益的な取組は意識的に取り組んで生まれたものではなく、自然発生的に生まれたものです。地域の方からの声に対して、私たちができることをしているうち、自然にいろいろな形になっていました。

■ポッケの森にはどんな方が足を運びますか。

子どもから高齢者まで、多くの方が来てくれます。地域の方は障がい者施設ではなく、ひとつの「場所」だと考えている気がします。小学校のまち探検や総合学習、中学校の職場体験等にも協力しているので、小中学生にも馴染みのある場所です。小学生が放課後にポッケの森の敷地内で遊んでいることもあります。先日は、小学生が「これ落ちてました!」と落とし物を持ってきてくれました。ここは交番ではないのに…(笑)



老若男女が集まるイベント「レインボーマーケット」でのじゃんけん大会の様子。大盛り上がり!



■地域の方との関係性について、意識していることはありますか。

ここは地域の資源であり、皆さんに活用してもらおう場所であるということは常に意識しています。また、地域の方々があってこそポッケの森だと思っています。幸い、この地域は施設に対する理解がとてもあるので、大それたことをした訳ではなく、意識せずとも日常적인関係性ができました。



宮城大学ボランティアサークル「MYUの森」と一緒にスイーツを開発し、ポッケの森にて販売



宮城大学の学生ボランティアと
人来田に住む家族と名物スイーツを企画

「人来田おさんぼ缶」
の完成

■日常적인関係性のなかで地域のニーズはどのように把握していますか。

町内会や地区社会福祉協議会などの地域団体が、ちょっとした会議でポッケの森を利用してれています。その際に、「これどう思う?」「なにか協力してもらえない?」と声をかけてもらえることも多いです。かしこまった相談ではなく、気軽に相談してくれます。そして、地域の方の「あったらいいな」「できたらいいな」には全力で乗っかるようにしています!

■嬉しかったエピソードはありますか。

震災前、人来田小学校の総合学習でポッケの森に小学生を招いたり、利用者が小学校に行き一緒にお菓子や弁当を作るという活動をしていました。当時小学4年生だった女の子が専門学生になり、「福祉分野に興味があるので見学させてほしい」と今年の2月に連絡をくれました。お話しする中で「私が福祉を目指す原点は小学4年生の時に見たポッケの森です!」と言ってくれたことがとても嬉しかったです。

■今後の地域との関わりについて教えてください。

地域の方から「ポッケの森ができてから地域が明るくなった」と言われたことがあり、我々は地域からも期待されていると感じています。地域の姿や課題は変わっていくと思うので、今後もできることを地域の方と一緒に探っていきたいと思います。

..... (取材協力)

法人事務局長 星野 幸氏

人來田唄の会



平成19年から、毎月第1水曜日にポッケの森レストランで開催しています。地域のどなたでも参加可能で、ポッケの森の利用者も一緒に参加しています。季節の唱歌や懐かしい昭和歌謡などを、参加者それぞれの世界観で自由に歌います。



■取組を始めたきっかけを教えてください。

岩淵氏：当時、民生委員児童委員と地区社会福祉協議会の地域福祉活動推進員をしていました。日中、声も出さずに一人で過ごす高齢者が多く、何かできないか考えた際、ポッケの森にピアノがあることを思い出しました。ピアノが弾ける近藤さんにピアノを弾いてほしいとお願いし、ポッケの森を会場とした唄の会が始まりました。当初からポッケの森は地域と一体であるという意識があったので、多くの方にポッケの森を知ってほしいという思いもありました。

星野氏：当時は障がい者に対する理解がまだ進んでいない中で、ポッケの森を利用したいと言ってくれることはとても有難かったです。

近藤氏：私と宮瀬さんは障がい者施設での就労経験があり、ポッケの森の利用者と一緒に歌えたら楽しいのではないかと考え、自然な流れで始まりました。

■唄の会にはポッケの森の利用者も多く参加していますが、一緒に活動してみて感じることはありますか。

星野氏：毎月第1水曜日の午後3時から唄の会があるということが利用者の体に染みついています。特別なイベントではなく、日常的なものとして楽しんでいます。

宮瀬氏：配布している歌詞カードの中で歌わない曲があると「なんで歌わなかったの?」「歌いたかった!」と言われることがあります。時間の関係でカットしたことを伝えても彼らにはそれが理由にならないようです(笑)

星野氏：そういう特性も、やり取りを通して「こういう考え方をするんだ」と地域の方に理解してもらう場になっていると思います。

近藤氏：楽しみ方もそれぞれで、歌っている最中にジャンプしたり、歩き回ったり。「この子は楽しい時にこうして表現するんだ」と教えてくれます。

■唄の会をやっていてよかったと思うことは何ですか。

近藤氏：毎月顔を合わせた時に「少し元気ないな」「今日は来ていないけどどうしたのかな」とお互いに気にかけて合うことができていることです。

宮瀬氏：参加者には一人暮らしの高齢者も多く、唄の会があることで体調を整えたり、身なりに気を遣ったり、ハリのある生活を送ることができている高齢者もいます。

星野氏：長年の間、毎月実施しているので、利用者たちは唄の会のメンバーの顔を覚えています。地域で見かけたときは自然に声をかけに行きます。

宮瀬氏：道で会うと「どこ行きましたか?」と必ず声をかけてくれます。どんなに遠くにいても気づいてくれて挨拶してくれます。

星野氏：障がい者に対して「得意不得意はあるけれど、仕事もきちんとできているし、会えば挨拶してくれる。私たちと何も変わらないじゃないか」と気づいてもらうことのできる相互理解の場にもなっていると日々感じています。



取材協力

人來田唄の会 近藤 章子 氏
宮瀬美代子 氏
岩淵 剛夫 氏
法人事務局長 星野 幸 氏